

# かぶ

科名：アブラナ科  
 原産地：ヨーロッパ  
 生育適温：15～20℃  
 別名：かぶらな

発芽適温：15～20℃

## ◎ 栽培カレンダー

作型	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
秋まき								土づくり ◎	種まき ○	-----□□□□□□	収穫 小かぶ 大かぶ	

## ◎ 栽培に必要なもの(10㎡あたり)

- かぶの種.....10ml
- 肥料:堆肥 30kg
- 苦土石灰 1.0kg
- 元肥用化成肥料(10-8-9)1.5kg
- 追肥用化成肥料(10-2-9)0.8kg

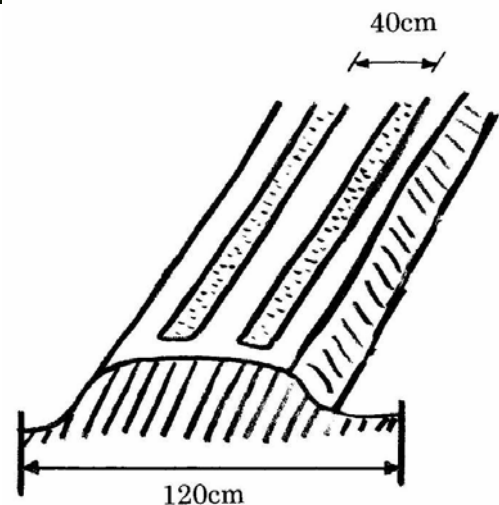


### 畑づくり

- かぶの根は、深く伸びてから、横に広がるため、土を深く耕します。また、早めに堆肥を施用して土づくりを行っておきます。
- 元肥は 1 週間くらい前に全面散布し、深く耕します。

### たねまき

うね幅 120cm 株間 10～15cm 2条まき



- 2 条の筋まきとします。くわで浅くまき溝を掘り、十分かん水した後、土が落ち着いてからばらまきします。たねまき後に 1cm くらい、土をかぶせ、軽くおさえてからかん水します。

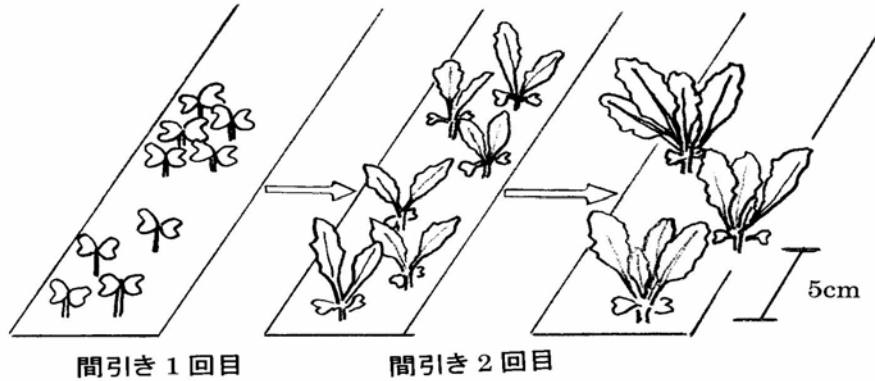


### 広島市内産「かぶ」

市内で栽培されているかぶのうち 75%が小かぶで出荷されています。小かぶはビニールハウスでこまつなやほうれんそうなどの軟弱野菜と同様に栽培され、短期間で出荷できるため、土地の利用率が高く、市街地農業に向く野菜といえます。安佐南区佐東地区を中心に、市内各地で栽培されています。

## 間引き

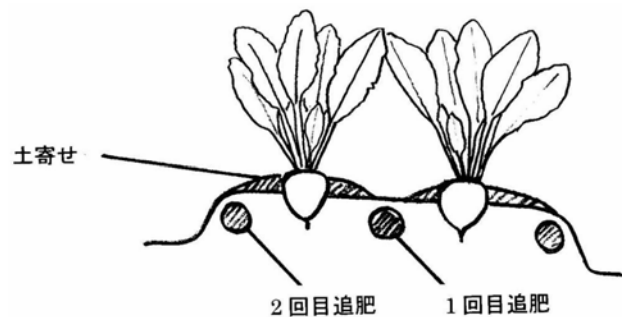
- ・ 普通 3 回行います。1 回目は双葉が開いたときに、ハート型でないもの、葉の色が濃かったり、うすいものを間引きます。2 回目は本葉 2 枚のころに、3 回目は本葉 5 枚のころに、生育が平均的なものを残し、良すぎるものと悪いものを間引いて 5cm 間隔にします。



- ・ 間引きした株はやわらかく、栄養もあるので、間引き菜として、汁の実や漬物として利用します。

## 追肥と土寄せ

- ・ 追肥は間引きのたびに、2 回施用し、除草をかねて軽く表面を耕し、土と混合します。
- ・ 追肥後は、根元がかくれるように、土寄せをおこないます。土寄せにより、根が固定し生育が早まるとともに、かぶの表面がきれいになります。



## かん水

- ・ 乾燥には比較的弱く、根の肥大が遅れるので、かぶの根が肥大するころ(たねまき後 1 ヶ月)から、畑を乾燥させないようにかん水します。

## 収穫

- ・ たねまき後、50~60 日で小かぶ(根の直径が 3~4cm)として収穫できる大きさになります。混んでいるところから収穫し、残したものを大かぶとして栽培します。
- ・ 小かぶは葉がやわらかいので、根とともに食用にします。
- ・ 収穫時期が遅くなると、放射状にすき間のできる「す」が入りやすくなるので、適期を過ぎないように収穫します。



かぶは弥生時代に日本に伝わったといわれています。古くから土着し、岩手の暮坪かぶ、飛騨の紅かぶ、島根の津田かぶ、太田川流域の太田かぶなど、多くの地方品種が見られます。

かぶにはビタミンCが 100g中 20mg 含まれています。葉の部分には根より多く、50mg あり、その他、ビタミンA、B<sub>2</sub>、カルシウムなども豊富に含まれています。